

2023年6月8日

ASF2023ディスカッションフォーラム実施報告

鴨川、平井

内容:

今回のフォーラムの中では Sophia IoT & AI 研究会が進めてきた内容の中でメインピックス的な脳型コンピュータの基本モデルである「セルラーフルー」に関して理工学部旧電気電子工学科の田中衛名誉教授から「心の計算理論」を脳型 AI コンピュータの実装に落とす為のその基礎理論とその持つ先進性革新性のご講演をいただき、それに対する意見交換を行い、その持つ意味合いや同窓会研究活動での意味合いなどを理解して頂く場を設けさせて頂いた。高度な内容の為、主宰側からの質問をしたり、会場側からの質問に応える事で理解を進める事が出来たかと思う。

冒頭主宰側から、IoT&AI 研究会の活動の概要とその産学官公民連携の形で科学技術研究活動が広く社会と繋がり、OB も大学という所で社会貢献をしていくこと、その中で時代の急激な変化に対して対応していく人材を育成していく事の重要性を説明した。又、日本経済が脱デフレを行うに当たりそれは心のデフレを解消する必要があるという事で今回発表した内容が国の新機軸成長戦略に対する重要なテーマであり、次世代脳磁計やミリ波次世代通信、センシングネットワークプロジェクトとして核心のプロジェクトでありテーマ間が有機的につながり日本経済や技術開発、研究開発特にAI/半導体戦略の重要な位置づけであることを説明した。

世の中の諸問題は殆どがコミュニケーションギャップの問題であること、それは価値観の違いであるが、人は基本的に「価値と意思決定」という心の計算を無意識的にも有意識的にもしており、その時空間ダイナミクスにたいして「脳・こころのエミュレータ開発」とそれを活用して「人文社会系の方が扱える学びと創造、こころの問題を解明する」研究プラットフォーム作りをしていることをお伝えした。そのテーマに参画をして頂くべく、「知的生産性の劇的向上」「学びと創造のコーチング」などの関係する基盤プロジェクトに関してオーディエンスの方4人からのご発言を頂いた。今後はこれらの内容に対して、具体的に実装開発や玉川大学等他の大学との連携を促進するワークショップやディスカッションフォーラムを開催していく事をお伝えした。

今回の成果はIEEEでの論文発表や書籍出版を実現しており、ユーザーサイドの人文社会系の方々に加わって頂き、活動主体の複数組織と設立した「脳・こころと智の融合研究機構」や NIICT (情報通信機構)初のベンチャー「通信デバイス研究所」などを含めた「産学官民連携」の CIVICTECH 活動で同窓会が大学と社会を結び付ける役割を持っていることを協調として、その活動の内容、目的や趣旨意義の伝達はかなり出来たかと思う。懇親会で前学長の早下前学長や、情報理工学科の矢入教授とも交流を図り、今後とも OB一現役、世代をスルーした社会活動への連携を深めていけることを確認した。

参加者(20名)(順不同、敬称略):

- 主催者側(4名): 鴨川、松井、田中衛、平井
- 上智理工学部 OB 関係(8名): 濱畑、宇野、馬、氏家、内田寛人、
吉田泰昌、宮本、小林孝市
- オーディエンス(8名): 中山裕一郎、前田あけみ、村瀬政治、杉井要一郎、
柳田国男、古川、金谷、山田真広、